

(Lonely Night Gathering)

やのめしの夜の句会報 第248号 (2025.11.16-2025.11.23)



参加者: クイズケ、カオルル、中川 肇子、汐田大輝 あづみ
のマルコ、しまねいくん、藤岡あや、aoiaoi、塩の司厨長、

眞白(ましろ)といいます。笛地静恵、天然石アクセサリー
kiki's、水井良袖(りょうゆう)、山田真佐明、

Nichtraucherchen、砂原妙々、アリタ別館、石原としき、蔭一
郎、松本清展、都まなづ、水の眠り、西沢葉火、美蟲角(び
ちゅうかく)、宮坂変哲、岡村知昭、鈴木正巳、季川詩音、

砂のような、西脇祥貴、安藤蜜豆、青海波、雷(らい)、あし
あど、不思議な話のアイン、東(ひがし)なさわや、霧雨魔理

沙、三明十穂、まどけい、おがけん、非常口ドット、石川聰
ゆずる、しゆじゅ、nes、鯖詰缶太郎、雨声、ひいらぎ、片

羽 雲雀、何となく短歌、古城えつ、夜歩エム寄る?、気ま
ぐれさん、たけゆきいづ、よむやま さか、月波与生(五七
名)

◆川柳・俳句

遊女の額を単品で頼む クイズケ

意味から来て青へ去る中島みゆき 西脇祥貴

空白をなにで埋めるか星月夜 真白

哲学はコレステロールに満たされ アイン

ペコちゃんもカーネル・サンダースも冬着
ガリレオと会う庭園の喫煙所 蔭一郎

冬服の下は裸の風呂上がり 蔭一郎

石垣の隙間にジャック・ニコルソン 蔭一郎

鞆から真鴨の顔だけ出る車内 蔭一郎

酸性の拳手はうるさい 都まなつ

抜き取った骨の水葬 都まなつ

重石まみれの古代都市 都まなつ

あらゆる草の食べ歩き 都まなつ

一兎も追えたことはない 都まなつ

午前四時から擬態・鳩 都まなつ

陰口のタン塩セット 都まなつ

天狼の子守唄ロジックは眠る 片羽雲雀

月に一度はほうれん草が転ぶ nes

つめたさも命と思う冬の海 shinjimou

新旧のへのへのもへじ非売品 石原といき

あおぞらともぐらの変をひた隠す 石原とつき

星の名に変わるあなたの記憶 藤岡あや

寒弾や師匠がぼけえと怒つとるで 鈴木正巳

ドレスコードの角隠し Nichtraucherchen

ドジャースの眉間に皺のドクトリン 汐田大輝

泣くときは甘海老になる老婦人 汐田大輝

十代に戻りたくなし冬の蝶 しまねこくん

マフラーが二本あつたら一本巻く しまねこくん

心から病の上をタンバリン 山田真佐明

ハロウインの仮面のままでいい夫婦 美蟲角

特選を貰つて欠けてくる余命 清展

甘鯛の「あ」の口先を煮てをりぬ カオルル

読み違えた文字で見えてはいた景色 雷

*

気まぐれに戸を叩くひと初時雨 あおい

休み取ります馬鹿のため 笛地静恵

渋皮のメロディー唇で聴く 天然石アクリセサリーキキ's

冬の庭に訃報という名の静寂 水井良柚

冬さればワインレッドの夜もあり 砂原妙々

あの頃は待ち切れないと思えた日 アリタ別館

シモーヌ・シニヨウ器科通い 西沢葉火

ハロウィンの仮面のままでいい夫婦 美蟲角

小雪やチキンレースの半ズボン 宮坂変哲

きれいだねシカせんべいの降る今夜 岡村知昭

遠くまで来たのに、月がそこにいる 安藤蜜豆

きみからの足跡ハートになつて恋 東こころ

いつまでも海に揺られて寝て いたい なさわび

左耳、右耳ふさぎ冬の海 三明十種

カラカラの喉が呌く除湿やん おかげん

つめたさも命と思う冬の海 しろとも

ポチであろう名前告げられ 冬の海 鯖詰缶太郎

きみ木の葉(もうすぐ握手ぼく狐 ひいらぎ

眠れないこんな日もあるJAZZを聴く まどけい
一匹の餓狼の狼雅 石川聰

もふもふのぬくもりを抱きしめて寝たい夜 気まぐれさん

*

鏡文字に映える羅紗緬の微笑 月波与生

◆ 短歌

石ころを弟が蹴る父が蹴る私が拾つて妹が蹴る 古城えつ
LINE右上3本線の先震える手では押せない「止まれ」 あと
しあと

*

例外のような雪虫 何食わぬ年末なのか 秋和 明

作りかけ彗星の青を抱きしめて君の笑みだけ胸で鳴りだす
あづみのマルコ

星の名をくれたあなたは戻らぬ 哀れにかがやくばかりの
仔犬 藤岡あや

押しボタン式の人生なんてタダお待ち下さい唱える日日を

塩の司厨長

寂しさは言葉に出来ず柔らかく 抱きしめてみる遠き陽だ
まり 真白

ジヤリジヤリと足裏だけが泣いている絶望の淵 光はいづ
こ 水の眠り

真つ白なひつそり閑の手帳へと置いてみましたりん」をコ
トリ 砂のような

LINE右上3本線の先震える手では押せない「止まれ」 あと
あと

Chinese 金平糖と 踊りましょ 鍵盤上に 国境は無い 霧雨

魔理沙

朝焼けか夕焼けだかに目をこするもうどっちでも良いやス
ランバー 非常口ドット

いつになく優しい君の一言に 隠された嘘 僕は傷つき
ゆづる

駅近は本当に駅近くだと氣付いた春はもう五年前 季川詩

音

虹彩の目撃者が投げられた「どういう時に神様がいます
か?」 雨声

そら浮かぶかつては爪と呼ばれてた かけらのような一刷
毛の白 何となく短歌

雨の日はタイムラインに泣かされる君にジェラシー醜いわ
たし 夜ボエム寄る?

◆詩・短文

ゆ

声がする森の湯気のたなびく朝
太郎は空気清浄機と遊ぶ

て

土の匂いが風に乗つて夕焼ける
次郎は換気扇の手を抱きしめる

ひ
眼鏡がくもつて昼にない鳥
士郎は可視光線と昼寝の床にいる

マ

猫と木魚とじやれるマタタビの
永遠の地雷 試合 延長する（山田真佐明）

凍るまでいかぬ白息夜の

冷えきつたざらりプリールサイド

風呼ぶぬらり寝返りを打つ波

言靈のフカが散歩する

ゆらりぬらり打ち寄せ引いて

行つたり来たり少し狭い

背鰭が一つ背鰭が二つ

兎は剥いだことあるけれど

背鰭が三つ背鰭が四つ

羊なんて見たことない（青海波・『フカと夜』）

◆作品評から

恋人に寿司も回れば観覧車 西沢葉火

（本日スシローへ行つたら回転寿司レーンがガラリと変わつて驚いた。もはや寿司は回転せず洗練されたオーダーシステムである。葉火さん 寿司は回らなくなつたのだ。（月波与生）

胎内に眠りの浅いユニコーン 空野つみき

ツチノコを前立腺に住まわせる 岡村知昭

（体内に何かが居る2句。作家性が違うと住まわせるものがこうも違うものかと苦笑。（月波与生）

目貼してペペランは宇宙船 カオルル

（そうだ。ペペランは宇宙船。ということを了解消化できるがどうかが川柳の楽しみ方に関わるところ。了解すると手前の「目貼」の付け方にも関心してしまう。（月波与生）

波与生）

鳥の名のひと文字をとり 都まなつ

（575の下5を取ったような句。これでジユニーク完成型とみるかは微妙なところ。でもまずジユニークはこのような句会から展開されていくのだろう。（月波与生）

読み違えた文字で見えてはいた景色 雷

（思い違いってなかなか怖くて、一回そうだと認識すればそのまま過ぎてしまう。だから全く違う景色が見えてるんですよね。（季川詩音）

鞆から真鴨の顔だけ出る車内 薮一郎

（何と可愛いらしい（たけゆき）う）

作りかけ彗星の青を抱きしめて君の笑みだけ胸で鳴りだすあづみのマルコ

（上の句「作りかけ彗星の青を」が好きです。流れる星の若い青色がイメージできました（水の眠り）

ラオスにもあった貴婦人製造機 汐田大輝

（「ラオスにもあった貴婦人製造機」。「にも」ということは、他の場所でもあったのだろうと思います。貴婦人は、単に身分の高い女性のことだけではなく、マスコミが用い

る鉄道用語でもあるようですが。なかなか面白いです。（季川詩音）

シモーヌ・シニヨウ器科通り 西沢葉火

（泌尿器科へ行くときにふと呟いてみた、そんな感じの12音。シモーヌ・シニヨウ氏の御身体の具合、心配になります。フランス語の音感っぽさを駄洒落っぽく一句にしながら、シモーヌ氏の足取りの重さと寂しさが、読んでて伝わってくるのは、どうしてなのでしょうか。（岡村知昭）

マフラーが一本あつたら一本巻く しまねこくん
（十本あつたら八本巻く（よもやまさか）

耳、右耳ふさぎ冬の海 三明十種

（一句の中にミが6つもある！ミ由来のmの子音とi母音の畳み掛けによる独特的の韻律感が気持ちいい）（石川聰）